

つくば市
環境白書

2018年度



つくば市 環境白書

2018年度



土



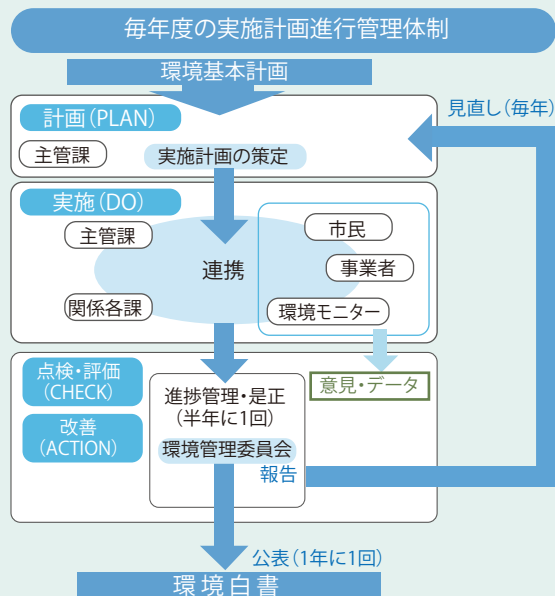
大気



つくば市の環境行政

つくば市の環境行政の最上位計画が「つくば市環境基本計画」です。市役所の環境保全に関する施策全体を計画的に推進するもので、毎年目標と実績の管理を行い、時代の変化や市民の方々のニーズ等に対応できるよう取り組んでいます。

市民の方々がつくば市の環境の状況や環境保全についての取組を知ることができるように、毎年「環境白書」を作成し、公表しています。



つくば市の2018年度の取組

「2018年度環境基本計画」施策から

環境基本計画の中では、環境を9項目(水、大気、土、地球温暖化対策、緑と生き物、廃棄物とリサイクル、産業、くらし、環境教育)に分けて施策を展開しています。

本パンフレットでは各項目における施策の一部について事業内容と実績を

合わせて紹介しています。また、環境に関する測定結果等は「つくば市環境白書 データ集」に掲載しています。

併せてご覧ください。

環境教育



地球温暖化
対策



緑と
生き物



廃棄物と
リサイクル



くらし



産業



自然環境(水・大気・土)

河川等の水質悪化による健康・生態系への悪影響、ばい煙や粉じん等による健康被害、不正な埋立て、土砂災害など、水・大気・土に関する環境問題は多様であり、私たちの生活に多くの影響をもたらします。このような問題を防ぐために各種取組を実施し、自然環境を守っています。

■ 湧水マップ作成事業(環境政策課)

筑波山麓付近の湧水を巡りながら、きれいな水を育む筑波山の自然環境を知ってもらうことを目的として、「湧水マップ」を作成しています。

作成した湧水マップは、市のイベントやつくば駅及び筑波山周辺の施設において配布し、市民や観光客の方々に筑波山麓付近に点在する湧水や豊かな自然環境について周知しました。



■ 水質浄化に関わる啓発事業(環境保全課)

生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、高度処理型合併処理浄化槽の設置にかかる費用の一部を補助しています。また、通常の単独処理浄化槽から高度処理型合併処理浄化槽に切り替える場合、単独処理浄化槽の撤去費用の一部を補助しています。

2018年度は計86件の補助を行い、水質汚濁の防止、安全性の確保を図りました。

■ クリーンセンターの排水・排ガス測定

市内から排出される一般廃棄物を適正に処理するために、施設の安定的な運転管理を実施しています。可燃ごみ焼却処理施設において、排水・排ガスの測定及び監視を行い、環境保全及び安全の確保に努めています。

年間を通して行った排水・排ガスの測定は、いずれも環境基準以下でした。

具体的な数値に関しては、環境白書データ集をご覧ください。

■ 低公害車の導入(管財課)

各部署の業務に支障がないように、安全で効率的な公用車の運用管理に努めています。また、老朽化した公用車の入れ替えの際には、大気汚染の影響が小さい低公害車の導入を行っています。

2018年度新規リースの車両18台において、低公害車を導入しました。

■ 環境にやさしい農業推進(農業政策課)

休耕農地から土埃の飛散や表土流出が起これば湖沼や河川等が汚れて水辺環境の悪化につながるため、対策として地面を覆う植物「カバークロープ」の導入を促進しています。また、減農薬・減化学肥料による栽培を行い県の認証を受けた生産者を支援するなど、水田と畑地の両方から環境保全型農業の推進を図っています。

カバークロープ事業では、申請者に種子を配布し生育状況の確認、実績の報告を受けました。有機資材購入費補助事業では、県の認証を受けた生産者に対して、有機肥料等への助成措置を行いました。



地球温暖化対策

地球の気温上昇は生態系や気候への影響が懸念されます。ゴミの削減や省エネ、自然エネルギーの利用などに取り組むことで温暖化防止に貢献することができます。

🟢 レンタサイクル事業(観光推進課)

環境に優しく、健康増進にも繋がる自転車を市内観光の交通手段の1つとして位置づけ、車から自転車への交通手段転換を推進しています。つくば駅前の「BiVi つくば」観光案内所及び筑波山口の関東鉄道(株)つくば北営業所で自転車の貸し出しを行い、駅周辺地域や筑波山麓周辺地域の観光資源を幅広く活用するための利便性向上を図っています。

年間を通してレンタサイクル事業を実施し、2018年度は5,318台の利用があり、観光客の二次交通手段として活用されました。



🟢 企業の緑化推進(産業振興課)

市内への新規立地や事業場の増築を行う企業に対して、工場立地法に基づく緑地整備の指導を実施するほか工業団地立地企業に対して、環境景観に関する協定を締結するなど、工場や研究所等の緑化率の向上を図っています。

これらにより、新規立地工場の緑化率20%を達成しました。

🟢 つくば環境スタイルサポーターズ(環境政策課)

「気軽に」「無理せず」「楽しく」みんなで地球温暖化防止や環境保全についての様々な取組を行うために、2012年にできた会です。サポーターズニュースではイベントの紹介をしており、ポイント対象イベントに参加して貯めたポイントはエコグッズと交換できます。

年間でポイント対象イベント12回開催、CO₂削減プログラム参加者919名、プログラム15回実施と、活動を通して市民の方々の環境配慮意識を高めることができました。



🟢 つくバス・つくタク運行事業(総合交通政策課)

つくばエクスプレス各駅と市内の主要拠点を結んだシャトル型コミュニティバス「つくバス」、生活圏の移動や公共交通への乗り継ぎの役割を担うデマンド型交通「つくバス」を運行しており、持続可能な地域公共交通の構築を目指しています。利用案内は、市のホームページをご覧ください。

2018年度のつくバスの利用者は1,052,988人、つくタクの利用者は55,858人でした。4月にはつくバスの停留所を3箇所新設しました。また、10月にはつくバス小田シャトル並びに谷田部シャトル路線の一部見直しを行い、バス停を増設し、改編を実施しました。



緑と生き物

筑波山をはじめとした豊かなみどりは、生態系の保全や自然のダムとしての機能といった多くの役割を担います。また、身の回りの環境を知り、触れることで、自然環境に対する意識の向上にもつながります。市では自然を体験できる活動やみどりを守り増やすための活動を行っています。

豊里ゆかりの森の取組

敷地内平地林の自然環境保全に努め、里山の自然公園として活用しています。また、外来昆虫である「アカホシマダラ」の分布状況を調査しています。さらに、併設している施設の充実を図ることで、体験型余暇活動の場を提供し、利用者の憩いの場づくりを進めています。

継続的に市内各地・豊里ゆかりの森内でアカホシマダラの調査を行い、生息を確認しました。里山の下枝や倒木の撤去を行い、自然環境を維持し、来訪者に自然公園として、憩いの場を提供しました。



高崎自然の森の取組(農業政策課)

「人と自然とのふれあい」を目的に解放している高崎自然の森では、高崎地区に残る豊かな自然環境を次の世代へとつないでいくために、施設の維持管理と整備を行っています。また、自然環境と森林ボランティアを活用し、里山・農山村体験事業を実施しています。



2018年度には親子で参加できる里山体験として「里山たのしみ隊」を5回実施し、生きものたちや植物とふれあい、また、農業体験の1つとして6月から8月までの毎週土曜日にブルーベリー収穫体験を実施し、里山の自然に触れあう機会を提供しました。

森林保全の取組(農業政策課)

森林の減少と荒廃が進む現在、残されたつくばの森林を守り、平地林や里山等が持つ機能と美しい景観を回復するため、森林整備を実施しています。また、森林ボランティアによる森林保全活動や造林事業の推進を行っています。2018年度は、県の森林湖沼環境税を活用した身近なみどり整備推進事業により、要望があった筑波、大穂、桜、谷田部、荃崎の計5地区を整備しました。

廃棄物とリサイクル

市では家庭ごみの処理を行っています。最終処理場の容量の問題などもあり、ごみの削減、資源の再利用、リサイクルを進めています。また、不法投棄の禁止・監視に取り組んでいます。

リサイクルセンター（廃棄物対策課）

リサイクルセンターは燃やせないごみや粗大ごみなどを処理する施設の老朽化により、新たに建設された施設であり、2019年3月15日に竣工しました。施設内にはごみ処理施設を含む工場棟と啓発施設を含む管理棟があり、循環型社会の構築に資するため効率よくリサイクルを行うとともに、ごみの減量化と再資源化を推進する拠点として運用していきます。また、市で収集したごみがどのように処理されるかを知っていただき、ごみの減量・分別の大切さをご理解いただくために、施設見学を随時受け付けています。建設工事が完了したことで、2019年度から新たにプラスチック製容器包装の回収処理を開始します。



家庭用廃食用油の回収精製 （廃棄物対策課）

家庭から出る廃食用油を市役所本庁舎、各交流センター、商業施設で回収して、バイオディーゼル燃料を精製して軽油の代替燃料として活用しています。これによりリサイクル意識の向上と河川等の水質汚濁防止を図っていきます。

2018年度は回収量 11,425 ㍓、精製量 2,700 ㍓となりました。廃食用油を活用することで、CO₂の排出量削減を図りました。

粗大ごみの有料戸別収集 （廃棄物対策課）

粗大ごみの予約受付センターを開設し、家庭系粗大ごみの戸別収集を行っています。これにより市民のみなさまの利便性向上と粗大ごみの確実な回収を目指しています。

随時電話予約受付、インターネット受付を行い、粗大ごみの有料戸別収集を実施しました。特に高齢者の方などがクリーンセンターへ搬入する負担を低減するとともに、確実な回収を図りました。

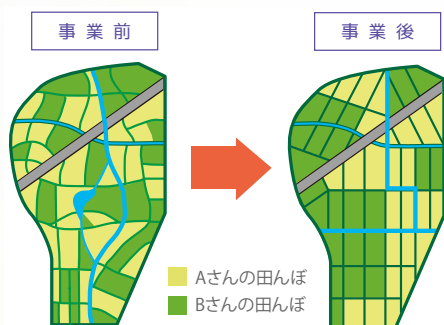
産 業

環境にやさしい取組をする企業を支援することは、環境保全に対する有効な手段のひとつです。環境資源を利用する農業に関する施策だけでなく、産業活動を通して環境に対する関心をもっていただけるような施策も行っています。

農地の基盤整備(土地改良課)

不整形な農地等の区画整理、農道整備、用排水路等の整備を一体的に行うとともに、分散している農地の集団化を図っています。流通・出荷の体制を整備し、大型機械利用による効率化を図ることで、農業経営の安定化と農村環境の保全・向上を目指しています。

農地の基盤整備を実施し、農村の環境整備と農業経営の向上を図りました。



学校給食での地元農作物の利用(健康教育課)

地産地消推進のため、学校給食に地元の食材を取り入れています。つくば市産コシヒカリ100%使用の米飯やつくば市産小麦ユメシホを使用したパンの提供など、各給食センターで工夫した献立作りを目指しています。加えて地元農産物生産者が食育を目的とした授業をする取組も行っています。

2018年11月には全小中学校・幼稚園に市内産食材を多く使用した「つくば市民の日」メニューを提供しました。また実施にあたり、豚肉や野菜の市内生産者を計5校に招いて食育授業を実施しました。



グリーンツーリズム(農業政策課)

楽しみながら、自然とふれあえる農業体験イベント、農産物オーナー制度を実施しています。

2018年度は、旬の農作物等の収穫体験イベントを9回実施しました。

また、農作物の種まきから収穫までを体験できる農作物オーナー制度には、142口の申込みがあり、農作業体験や収穫祭を通して、農業に触れる機会を提供しました。



エコショップ制度(廃棄物対策課)

エコマーク商品の販売やリサイクル活動など、環境に配慮した活動を積極的に行っている小売店舗をエコショップに認定しています。

2018年度にはエコショップ認定店のうち4店舗の更新手続きを実施しました。小売店舗をエコショップとして認定することで、来店する市民の方へ資源循環の大切さを知っていただくきっかけづくりとなりました。

くらし

生活様式の多様化、快適な暮らしに対するニーズの高まり等からくらしに関わる環境問題が多数存在します。対策として事業者や建設現場に対する指導等を行っています。また、市の歴史的環境・景観、人工的都市景観を保全する活動を進めています。

環境美化に向けた取組(環境保全課)

つくば市では、自主的に清掃活動を行う市民・事業者などに、清掃用具等の支援をしています。また、市職員も月に1度、美化ボランティア活動を行っています。その他、つくば市きれいなまちづくり実行委員会で企画した活動を毎月実施しています。小学生とのゴミ拾い活動やまつりつくば翌日のゴミ拾い活動、イベントでの啓発活動等を通し環境美化意識の高揚を図り、「きれいなまちづくり」を目指しています。

各地区でのゴミ拾い活動のほか、トンネル絵画の制作や不法投棄禁止看板設置などを行うことで、落書きやポイ捨てを抑制し、清潔できれいなまちづくりを推進しました。



公共工事時の環境配慮(環境政策課)

市が施工する工事が環境への負荷を軽減しながら環境保全に配慮して行われるように、「つくば市公共工事配慮基準書」に基づいて設計・施工をしており、「環境配慮チェックリスト」にて各段階における環境配慮について確認しています。

チェックリストでは、以下の4つに分類する計41項目を設定し、工事の設計時と完了時にどれだけ環境に配慮した公共工事を行ったか確認を行っています。

- ・ 動植物の生息・生育域や水・土・景観を保全するための自然環境、周辺環境への配慮項目
- ・ 資源の有効利用と建設廃棄物処理対策に関する配慮項目
- ・ 建築物の高断熱化やエネルギー消費効率の高い機器の導入といった省エネルギー対策、新エネルギー導入推進に関する配慮項目
- ・ 騒音や粉じん、悪臭等の防止を含む工事時の配慮項目

工事を担当する各課で、環境に配慮した工事が実施できているか確認し、いずれも環境に配慮された公共工事が行われました。

環境教育

持続可能な社会を作っていくためには市民・企業の方が自主的に、積極的に環境保全に取り組んでいくことが重要となります。そのため市では、市民や小中学生を対象に環境に関する各種環境教育・学習事業を実施しています。

■ エコ・クッキング(環境政策課)

2005年度から企業との共同事業として「作りすぎない」「捨てない」「流さない」をキーワードに、市内の小学校及び親子等を対象に調理実習を行っています。料理の面から環境についての理解を促し、意識の向上を図っています。

2018年度は市内8校 15クラス、つくば環境スタイルサポーターズを対象に2回のエコ・クッキングを実施しました。実習を通して、食材やエネルギーを無駄にせず、水をなるべく流さない調理や後片付けの方法を学びました。



■ 環境イベント(環境政策課)

筑波山自然環境教育事業や環境フェスティバルなどのイベントを開催しています。市の豊かな自然、身近な環境問題、環境保全等への理解を促し、意識の向上を図っています。

2018年度に4回開催した筑波山自然環境教育事業では、筑波山、葛城地区大規模緑地、牛久沼等で豊かな自然に触れたり温暖化等による影響を観察したりしました。また11月10日、11日に開催したつくば環境フェスティバルでは、市民団体や企業、研究機関及び行政の環境に関する取組等を紹介しました。これらのイベントを通して環境に対する意識の向上を図りました。

■ つくばスタイル科(教育指導課)

市内全学校でつくば市独自の教育課程「つくばスタイル科」を実施しています。各単元を子どもたちが自発的に問題解決的な手法で学んでいき、トータルとしての社会力「つくば次世代型スキル」を獲得していきます。環境単元はコア・カリキュラムの1つとして構成されており、1年生から9年生までの全学年が、持続可能な社会の実現に向けて環境にやさしい社会づくりについて考えを深めていく活動を行っています。


5年生では、学校や地域に住んでいる生物を採取して観察・調査を行う活動を通して、水生昆虫に対する興味関心を深め、命や環境を大切にする意識を育てています。また先生から教わるだけでなく、児童生徒が興味を持った環境問題に対して主体的に活動を行っていきます。調べ学習や発表だけにとどまらず、今の自分たちに何ができるかを考えています。



■ 筑波山麓自然学校(筑波ふれあいの里)

筑波山麓の地域資源の有効活用を図り、地域の活性化につなげていくために、季節に応じた魅力ある自然や里山文化の体験プログラムを提供しています。「沢の生きもの観察会」や「虫むし探検隊」などといった親子で参加できる体験講座を年間10回開催しました。体験を通して、筑波山麓の自然や文化に理解を深め、みんなで守り育てる機運を育成しました。





つくば市
生活環境部
環境政策課

〒305-8555
茨城県つくば市研究学園
一丁目1番地1
TEL 029-883-1111 (代)